

日本史演習6C－I

科目ナンバリング SEM-311
選択必修 2単位

山下 須美礼

1. 授業の概要(ねらい)

江戸時代後期から明治初年にかけての様々な歴史的事項に関して、教員が提示したテーマを受講者で分担し、担当者はそれに関する書籍・論文・史料を徹底的に調査し、まとめて発表する。発表の準備を通して参考文献や論文の探し方、史料の扱い方や読解方法を学びつつ、当該時期の政治状況や社会状況についても理解を深める。発表の進行は受講者が順番に務める司会担当が行い、その他の受講者はテーマについての予習を元に議論に積極的に関わる。

2. 授業の到達目標

- ・近世史料の読解力や分析力を身につける。
- ・文献や史料の探索、読解、分析を通して、歴史学の方法論を修得する。

3. 成績評価の方法および基準

- ①発表担当の際の準備度合いおよびその発表内容(50%)
- ②司会担当の際の準備度合いおよびその進行内容(10%)
- ③毎回の報告に対する質疑等による参加度(20%)
- ④春期末のレポート(20%)

4. 教科書・参考文献

参考文献

藤田寛 日本の時代史 17 近代の胎動 吉川弘文館
井上勲 日本の時代史 20 開国と幕末の動乱 吉川弘文館
平川新 全集日本の歴史 第12巻 開国への道 小学館
田中彰 日本の歴史⑮ 開国と倒幕 集英社
浪川健治・古家信平 江戸ー明治 連続する歴史 藤原書店

5. 準備学修の内容

- ・発表者以外は、発表者が事前に通知する参考文献等に目を通してくる。
- ・発表者以外には、毎回の発表テーマについて簡略な予習を課す。

6. その他履修上の注意事項

- ・毎回の予習は必須である。
- ・各回テーマについての基礎的な情報を調べた上で授業に参加すること。
- ・議論への参加も必須。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス(テーマの紹介・授業の進め方・評価の仕方)・報告順番決定
- 【第2回】 先行研究の探索・読解とその利用方法について
- 【第3回】 史料の読解とその扱い方について
- 【第4回】 各自のテーマに関わる先行研究・参考文献についての報告①
- 【第5回】 各自のテーマに関わる先行研究・参考文献についての報告②
- 【第6回】 発表と質疑応答①
- 【第7回】 発表と質疑応答②
- 【第8回】 発表と質疑応答③
- 【第9回】 発表と質疑応答④
- 【第10回】 発表と質疑応答⑤
- 【第11回】 発表と質疑応答⑥
- 【第12回】 発表と質疑応答⑦
- 【第13回】 発表と質疑応答⑧
- 【第14回】 発表と質疑応答⑨
- 【第15回】 発表と質疑応答⑩および授業のまとめ